

教育	<p>就学时検診に行ったところ、入学を希望する小学校の校長と教頭に呼ばれ「普通学級では難しい。特殊か養護に行くように。」「着替えができない、集団行動ができない…」と何々ができないと色々言われた。</p> <p>高機能自閉症という特性上、初めての場所が苦手なので、介助の先生をつけるようお願いしたが付いていなかった。</p>	<p>就学时検診をなくしてほしい。検診は障害児を普通学級に入れられないようにするためにあるのでしょうか？</p>
教育	<p>普通学級を希望したところ、教育委員会から付き添いを要請された。</p>	<p>教育委員会は、就学委員会の構成員や仕組みを明確にしてほしい。</p>
教育	<p>マザーズホームに通っている息子は、来年小学校に入学予定。普通学級に行くつもりだったが、マザーズホームの担当の先生から「特殊学級を見学しないと」と言われ、まったくその気もないのに見学を強要させられた。後日、それが就学相談という扱いになっていたという事実を知らされ驚いた。教育委員会で勝手に段取りをしてほしい。</p>	<p>息子の場合、言葉の遅れがあるので、余計にあらゆる誤解を受けやすい。医療機関にも通じた専門の言語聴覚士やカウンセラーがマザーズホームに一人もいないのは、おかしいと思う。一般の保育士が全部を兼ねているのが一番問題。</p>
教育	<p>発達遅滞を伴うてんかんによる障害を持つ子が、ある私立幼稚園に入園後、登園時間・日数を制限された。園長は子をどのように指導していくかの相談ではなく、園側の都合ばかりを一方向的に押しつけ、退園の強制をほのめかす発言を繰り返した。これらは明らかに障害児に対する差別と、子の学習権・親の教育権を侵害する行為である。</p>	
教育	<p>学校で健常児にうつつしがられ、泣かされたこともあった。</p>	
教育	<p>養護学校の指導は、「自立が目的」と決めつけている。親としては実社会に沿った「勉強」をさせたいのに、障害児ということで作業重視である。</p>	<p>学校の先生や県の職員の意識を変えてほしい。</p>
教育	<p>自閉症と知的障害のある子が小学校の普通学級に在籍し、情緒学級に通級していたが、情緒学級担当の教師が、「普通学級・情緒学級在籍そのものが無意味で指導しても効果がない」と、ある大会で親に無断で発表した。子の名は言わなかったが、少人数の通級生なので、明らかに特定される事例でした。特殊教育に携わる教諭の障害者蔑視であると思う。</p>	<p>障害児・者の教育と指導にあたる人の資質をみて採用してほしい。</p>
教育	<p>子の就学前、市教委に、身体に障害があるからこそ統合教育を受けたいこと、就学相談等は一切不要であることを文書で伝えたにもかかわらず、市教委から何度も電話を受けた。</p> <p>就学健診・就学相談を拒否したので何の資料もないはずなのに、「養護学校が適当」という就学指導委員会からの内容証明郵便が届いた。その後、入学するとき、親の付き添いを求められた。</p> <p>入学式の際は、校長から配慮ある言葉を式の中でいただき、自分たちが用意した「入学を希望した理由」を書いた文書を入学者全員に配っていただくなど快く迎えてもらった。子どもたちの間には心のバリアもなく、楽しく学校生活を送らせてもらっているが、未だに付</p>	<p>就学先決定に関して、県議会決議である「保護者の意向を最大限に尊重する」ということ、また、県教委が全学校に配布している「障害児の通常の学級への就学についての配慮事項」を、県から市町村へ徹底してほしい。(教員の適正な配置も同様)</p>

	き添いは続いている。	
教育	特別支援学級に入学したが、その担任が明らかに学級経営能力のない教師だった。普通学級の担任ができないような教師を特殊学級に、という教育委員会の意向が見え、大変嫌な思いをしている。	
教育	半年も前から新設の特殊学級に入学することが決まっていたにもかかわらず、準備が不十分だった。普通学級と別の建物に置かれ、教室内に何もなく、担任も「自閉症」に関する知識・経験がない。	
教育	子どもが5分遅刻して登校したところ、担任から「(学校に)来ないで」「ずっと家で勉強しなさい」と言われ背中を叩かれた。	
教育	親が子どものケガに気付き担任にどうしたのか聞いたら、「学校の授業中、カッターで指を切ったが、私は『〇〇ちゃんが“痛い”と言えるかな』と思って痛みを訴える力を見るために黙って待っていました。でも何も言わなかったのもそのあと手当てしました。」と言われた。	
教育	真冬、たらいの冷たい水の中に子どもを入れたまま2時間放置した。子どもは肺炎になった。担任は「本人が入りたいと言ったので入れました。」と言った。	
教育	PTA主催の講演会があった。参加者名簿に〇をつけようとしたが名前がなかった。特殊学級の親は「その他」に記入するようと言われた。	
教育	高校生になりたいのに、養護学校では作業ばかりしている。高校生は勉強するものだ。	
教育	毎日マラソン中に「補助します」と言って先生が背中をドンと押す。痛いし、いやだから止めさせてほしい。	
教育	具合が悪いから作業を休ませてほしいと言っても「嘘を言っている」と言って休ませてくれない。	
教育	私は障害児でないのに養護学校に行かされた。	
教育	養護学校の通学バスで男の先生に娘が胸を触られた。このことを娘が泣きながら訴えたので親が校長に言いに行ったが無視されるようになった。娘はそのとき着ていたブラウスを捨てた。	
教育	子どもが、作業に行くバスの中で同じ作業班の子から暴力を受け続けたが教師は止めさせるなどの対応をしなかった。後で調べたら子どもは骨折していた。	
教育	児童相談所で子どもが普通学級に通っていることを非難された。	

教育	親に何の相談もなく、学校で子どもに介助員が付いていた。介助員が他の子との壁になるので、その子は学校に行くのを嫌がるようになった。	
教育	高校で教師に吃音のまねをされ、皆に笑われてとてもいやだった。	
教育	かつて、子が学齢期に保育園・学校・地域から排除された。ケースワーカーに保育園・普通小学校をあきらめるよう言われ、小学校でも担任に「学校へ来るな」と言われ他の父兄や子どもたちも同調した。教頭・校長は「他の子にけがをさせ危険」と言い、地域中に「人を殺した」「火をつけた」「誰かの耳を切り落とした」と噂を流布された。自宅に脅迫状が届いたり、兄弟がいじめられたり、家に放火されかけたりして引越を余儀なくされた。	ケースワーカーや教師等の公務員に「絶対にしてはならないこと」を徹底してほしい。
教育	てんかんの発作を起こした娘が、その翌年の合唱コンサートの参加を顧問教師に拒否されるという反教育的な扱いを受けました。その時点では、若干集中力がなく、主治医からもゆったり過ごすよう言われていたものの、すでに発作もなく、しかもその会は知的障害児童学級も出演する「ふれあいの心を大切に」という趣旨のコンサートでした。 後日学校に問いただしたところ、会場にもいた校長・教頭は「気分が悪くてステージから降りたのかと思った。本当に教育的でない。申し訳ない。」と平謝りでしたが、顧問教師からは一言もなく、校長曰く「言うことを聞かず困っている。」とのことでした。	教育現場で児童は教師に対しては弱いものであり、弱いもの、特に、病気・障害を持った子どもは頭ではなく心で理解し指導していただける先生が必要です。 顧問教師はまだどこかの学校にいらっしゃると思いますが、娘と同じような悲しい目に遭っている子がいるのかと思うととても複雑な気持ちです。
教育	知的障害(広汎性発達障害)の男子の親。学童保育の利用申込をしたところ、個別面談を求められ、子どもを観察する前から「多動じゃないの?」「ウチの学童はおとなしい障害児を求めている」などと決めつける発言あり。1週間の試行期間中も「早く迎えに来い」「一人1個のおやつを2個も3個も食べた」と嫌味を言われ続けた。入所の判定通知もこちらから問い合わせやと来る始末。結局入所は却下され退所させられた。学校のクラス担任も学童保育に預けることに大反対。市職員・学童指導員・教員がこういう発言を平然とすることがとても許せない。	
教育	知的障害の児童。小学校就学指導で普通学級を希望したら面接官に反対された。普通学級入学後、保護者会等で「学校は託児所ではない」「何でいるの。皆が我慢している」と責められる。偏差値志向の強い親ほど排除したがる。先生も環境を整えたり変えたりするのではなく、手がかかるという認識で本人を怒鳴る。要望を出すと「文句を言うなら…」という対応をする。適切な配慮をしてほしいと伝えることに精神的に疲れた。	差別禁止の法律が必要。条例で教育のことを取り上げる。差別について具体的に分かりやすい文書で。救済機関が必要。罰金や公開の仕組みがあればよい。

教育	身体障害の児童。保育園入園に2年かかり、小学校でも支援がなく放置された。学童保育を受託している社会福祉協議会も拒絶的で、要項に“障害児を除く”とあり半年がかりの運動で入所できたが、介助や事故の対応などについて念書を書かされた。障害のある人も地域の構成員であるという認識がない。きちんとした配慮がないことによって社会参加の機会を多く失った。	学童は自治体が運営委託しているのだから、自治体が調整機関となる。
教育	広汎性発達障害の児童。障害によりニーズが違うのに、障害と一括りするが故の狭い選択肢。高校も高等養護か普通高校の2つしか選択肢がない。それ以上の、あるいはそれ以外の選択肢を求めるとお金がかかる。	高等養護の数と質を増やしてほしい。多動の子と重度肢体不自由の子と一緒にいるのは無理である。色々な障害にあったカリキュラム、教育の場がほしい。誰もが望む進路を選べるようにする。
教育	広汎性発達障害、アスペルガー、注意欠陥障害の女子。知的な遅れがなくても様々な困難がある。「見た目が普通なのに何で変なの？」と言われ、説明しても分かってもらえない。先生も「特別扱いたくない」というが本人にはそれがストレスになる。理解や支援をしてもらうために、わざわざ“うちの子には障害がある”と言わなければならない。また、知的な遅れがなく手帳がとれないので、公的支援が受けられない。軽度でも収入が多くなっても安心して過ごせる教育環境がほしい。	
教育	軽い知的障害のある女子。普通学級、学童保育に入っている。学童保育ではあえて補助をつけずに入れたが、仲間外れにされていたのに指導員は放置した。指導員や運営委員長に「学童は障害児の施設ではない」などと言われ、仕事を辞めざるを得なかった。また、学校で担任が替わり混乱しているのに「お母さんが追いつめたせいです」と家庭のせいにした。的確な配慮を求め、学校と10ヶ月もめた。すれ違いざまにせせら笑う先生もいた。常識的認識に欠けている。	無理解には知識を普及させる啓発が必要。講演を開いても関係者しか集まらない。一般の人も参加して差別は恥ずかしいことだという発想を広める。
教育	教育研究所で、普通学校に通っている障害児の人数を聞いたところ、ほとんどいないという返事だったが、実際には多くいることがわかった。 障害のある娘のことで、普通学級希望で就学相談を受けたところ、「普通学校も今荒れてますからね。いじめもあるし。ただ座って(理解できない授業を聞いても)お子さんには刺激がなくてつまらないでしょう。養護学校がいいのでは。」と言われた。	1) 教育研究所、就学相談は保護者の要求する情報を与えてほしい。 2) 教育研究所、就学相談は、保護者に「普通学校無理」と指示しないでほしい。
教育	慢性疾患があるために、希望していた高等教育機関(看護)への進学を断られた。	教育機関への差別についての理解の周知徹底。
教育	特殊学級の生徒が体罰を受けた。担任には反省の色が伺えたものの、体罰は許されないだけでなく、障害のある子は事実を訴えることが困難という点で二重の人権侵害に当たる。	特殊教育における体罰について、過去もふくめて調査することが必要。

教育	普通学級に車いすで入学した子の保護者が、就学に当たって「保護者が介助すること。学校で事故があっても学校の責任を問わないこと。」という誓約書を書くよう求められた。	障害のある子が普通学級に入ったとき全校的な協力態勢を作るよう、教育委員会が校長を指導する。また、このような誓約書は無効であることを指導する。
教育	養護学校の児童が、多動のため複数の教職員から押さえつけられる体罰を受けた。母が手紙を担任に出したが改善されなかった。	特殊教育において、本人と保護者が自由にものを言えるようにしなければならない。
教育	中学校の普通学級にいたが、各教科の遅れているところを調べるという名目で知能テストを受けさせられ、「〇〇ができない。何歳レベル。」と言われ養護学校等を勧められた。	
教育	小学校普通学級入学後、数ヶ月経って行われた話し合いで校長を含む6名の先生から、「この子は意思の疎通ができない」「他の子に迷惑」「学校とは普通の子が通うところだ」「もう見るのは限界」等と言われ、心痛のため子どもを登校させられなくなった。その後、校長・教委に要望書を出してやっと学校の対応が改善され、子どもは楽しく通えるようになった。	障害児も原則として学区の小中学校普通学級に入学でき、当事者の申し出に応じて特殊教育の場(盲・ろう・養護学校、特殊学級)を選べる制度とすること。
教育	転入して普通学級に通い始めたが、学校でケガをしても連絡がない、他の子にはその都度返すテスト用紙が学期末にまとめて返されるなど、他の子とは違う扱いが続いたあげく、普通学級を希望しているのに担任に「子どものレベルにあったところで過ごさせるのがよい」などと言われ続け、追い出されたも同然で別の学校の特殊学級に転籍した。	障害児の就学先について、当事者の意思を優先することを確立すること。
教育	就学指導を断り普通学級に入学後、校長から「特殊学級なら3分の1ですけど、普通学級だと37分の1しか目が届きませんがいいんですね？」と言われ、脅されているように感じた。「困ったときには空いている先生で見てくれますか」と聞いたところ、「空いている先生は誰もいません」と言われた。新しい担任には「他の先生方は(この子の)担任を断ったのに、私は校長先生に直々にお問い合わせちゃったから(担任になった)…」と迷惑そうに言われた。	障害の種類や程度にかかわらず、当事者が望んだ場で必要な配慮を受けながら学校生活を送れるよう環境を整備すること。
教育	小学校普通学級に入学し、クラスメイトは息子のありのままの姿を受け止めいい関係もできてきた。しかし、母は校長からことあるごとに、「(普通学級にいては)子どもがかわいそう」「もっと子どものことを考えて」と言われ続け、学校から追い出されるプレッシャーを感じた。ある時、「学校から出て行ってほしいということですか」と聞き返したら、校長は否定しなかった。	「障害児は普通学級にいるべきではない」という教職員の意識を排し、「自分たちが見るべきクラスの子どものひとり」として受け止める意識改革を行うこと。
教育	担任から、子どものできないことや先生の苦労・大変さを連絡帳に毎日書かれたあげく、入学後1ヶ月で「(普通学級では)もう見られません」とはっきり言われた。	普通学級での差別事例や良い対応の事例について具体的な教職員研修を行うこと。

教育	普通学級在学中、特殊学級への就学指導をずっと断ってきたが、「LD、ADHD、高機能自閉症等の心配がある。放っておいたら長崎の事件ようになるから特殊学級へ。」と病名まで言われ、抵抗しきれず特殊学級へ移った。	
教育	普通学級にいたが、進級時に親の知らないうちに就学指導委員会にかけられ、校長に呼ばれていきなり「養護学校に決定しました」と言われた。町教委や校長も「親に言わずに就学指導委員会にかけると平然と言っていた。	
教育	普通学級入学以来、先生方から毎年「みんなと一緒にのことは無理」と言われ続け、子ども本人にも「〇君はこのクラスに居たいの？」と聞いていた。再度、普通学級でみんなと一緒に過ごす意思であることを学校との話し合いで伝えたが、その後も、授業参観で手を挙げているのに無視されたり、どの発表グループにも入れない等の対応が続き、介助員からも「できもしないのにみんなと同じことをやっていたが困ります。」と言われた。	
教育	就学前の学校との話し合いで、子を普通学級に通わせたいと言ったところ「普通ではないんですよ」と言われた。子どもの介助についても親の付き添いを求められ、「親が付き添いにつくことを納得していただくまで何度でも話し合います。夜でも休日でも家でも主人の会社でもどこでも行きますから。」と脅しのようなことを言われ恐ろしくなった。	
教育	小学校入学時、親の付き添いを強いられ、母親が病弱であることを伝えると、「父親が付き添いなさい。」と言われ、父親が仕事を辞め銀行ローンで生活費を補いながら子どもに3年間付き添った。	
教育	学校から付き添いを普通学級入学の条件にされ、母親が体調を崩して付き添えなくなったら、校長に「登校しなくていい」と言われた。見かねた地域のボランティアが送迎すると学校に申し入れたが、1時過ぎには連れて帰ってくれと言われた。	
教育	学校から、本人の下に2歳の子がいて無理なのに、「休み時間には親が介助すること」を普通学級在籍の条件とされた。ワゴン車を購入して校門の近くに駐車し、その中で2歳の子を育てながら休み時間ごとに学校で本人の介助にあたった。	
教育	親の付き添いを普通学級在籍の条件とされたため、母親が病気や所用で付き添えないときは、子どもも欠席せざるを得ない。	
教育	小学校で親の付き添いを強いられ、学校でも家でも子どもと一日中一緒にいるため、子どもを叱ることが多くなり、親子関係が悪化。家事もできず家庭がめちゃくちゃになり心身共にまいってしまった。	
教育	学校から徒歩遠足への親の付き添いを求められ、断ったら一人だけ学校に残されて参加させてもらえなかった。	

教育	学校で子に付き添う親には昼食の時間も与えられず食事抜きで付き添っていた。多くの先生方はそのことを知っていながらそのままだった。	
教育	進級してから介助者がつくようになった。そのため、担任が障害児のことを介助者任せにするようになり、直接声をかけることがなくなった。また、介助者が一日中ついているので、本人が息苦しく感じるようになり、学校に行きたがらなくなった。時間をかければ自分でできていたことも、介助者が手伝うことが多くなり、結果的にできることもやらせてもらえなくなった。	
教育	普通学級で、介助員が常に子について学習指導や親との連絡等も全て行い、担任はほとんど関わろうとしない。子どもは中学生なのに介助員から幼稚園児のように扱われ、クラスメイトとの関わりも減り、先生方も本人がいるのに介助員に話しかける。	
教育	親は望んでいなかったが、子に手がかかるという理由で学校が介助員をつけるようになった。介助員が常に居て監視しているので、子は混乱していやがり登校を渋るようになった。	
教育	小学校で、ガラスを割っていないのに犯人にされ、担任に説明を求めたら「お子さん以外の子の言うことは信用できるが、お子さんの言うことは信用できない」と言われた。クラスメイトにけがをさせられたのに自分のせいにもされるなど、担任の偏見と無理解によりいじめられ追いつめられ、「死にたい」「先生が怖くて学校に行けない」と訴え登校できなくなった。	
教育	中学校の部活動は、「みんなで協力しあうことを経験する大事な場」と説明されていたのに、顧問の先生に「この子には誰も何も期待していない」と言われた。	
教育	小学校で体育の授業に参加しているにもかかわらず、肢体不自由を理由に通知票の体育の欄に斜線を引かれた	
教育	小学校(普通学級)の担任と校長から、「この子に△をつけたのでは他の△の子に申し訳ない」「評価するレベルに達していない」と言われ、みんなと同じ通知票に記載をしてもらえなかった。	
教育	小学校の校長に「学校は勉強するところだから、(普通学級に)いるだけでは卒業証書はあげられない。」と言われた。	
教育	学校の担任が、何かにつけて発達検査の結果を持ち出し、「○君は3.8歳だからねえ」と言う。一人だけ、担任の机の隣に机を置かれている。廊下の掲示物にも一人だけ先生からのコメントがなかった。また、「給食をぐちゃぐちゃにしまいました」など、子どもの悪いところやできないことを連絡帳に毎日書かれて特殊学級をすすめられ、親は精神的にまいってしまった。	

教育	小学校普通学級で、子どもが食べ物をこぼすことを理由に一人だけ給食のグループから外し、担任と一緒にグループを回されている。子は「本当は自分のグループで食べたい」と訴えている。	
教育	進級して担任が代わり、子どもが障害があることを理由に、他の子が2人席のところ、担任のすぐ前の1人だけの席にさせられた。子は以前のようにみんなと同じ扱いを望んでいる。	
教育	中学校に対し、肢体不自由のため他の子と違う対応をする場合は連絡するようお願いしていたのに、事前連絡もなく、体育祭の競技に一つも参加させてもらえなかった。また、授業で自画像を描く際に、本人が望まないのに、担任が車いす姿で書くことを強要した。	
教育	小学校で、先生がクラスメイト全員の前で「〇〇ちゃんも普通に生まれてくれればよかったのにね」と言った。	
教育	小学校で、親の知らない間に、国語の時間だけ普通学級から取り出されて、別室で一人で授業を受けさせられていた。	
教育	一人で登下校している特殊学級の児童。下級生に囲まれて、石や砂をかけられていた。「おうむ返し」をするので、わざと「ばか」とか「あほ」とか言わされていた。	
教育	自閉症の児童。パニックを起こすのを面白がって、わざとかまってくる下級生がいるので、通学路を変えた。	
教育	運動会で、健常児と一緒に走る障害のある息子に対して、「一緒にやらせるのはかわいそう」と言われた。	
教育	私立幼稚園で「障害児受け入れます」と謳っているにもかかわらず、手がかかることを理由に、健常児より1時間早く迎えに来るように言われた。	
教育	私立幼稚園の面接時、「どうしてこんなところに来るのですか？」「障害児には障害児の場所があるんです。」と説教された。	
教育	10年来、障害児を受け入れていた私立幼稚園に「入園したい」と行ったら、「前年度まで受け入れていたが、とても手がかかり大変だったので、これからは障害児は受け入れないことになった。」と断られた。	
教育	一人での登下校時、通学路途中の家のチャイムをいたずらしたので、担任と謝りに行ったら「こういう子はきちんと管理された場所に入るべき。」と言われた。	
教育	自立登校練習中、子の後ろについて歩いていると、声を出しながら歩く子を見た通行人に、「親が手をつながなくてどうする！」と怒られた。	

教育	子が小学生のとき、特殊学級に編入するための知能検査が、親の承諾なしに行われた。医師に相談したところ、「検査自体が差別。仮に特殊学級に行くにしても、他の親に相談してよく考えてからにしてください。」と言われた。他の親に相談したら「やめた方がよい。できるだけ普通学級で他の子と交流させた方がよい。」とのことだった。	
教育	中学校で、1・2年生のときは理解ある先生だったが、3年次の修学旅行の際、日程上自転車で班行動する場面があり、子が自転車に乗れないので、担任から行かないよう説き伏せられた。子から事情を聞くと本心では「行きたい」とのことで、このときばかりは日頃いじめていたクラスメイトも、「せっかくの修学旅行だから一緒に行こう」と言ってくれた。	
教育	特殊学級で、名簿や行事に忘れられる。	
教育	先生の話が分からず質問に行ったところ、「友人に聞いてくれ」と言われた。しかし、先生から直接聞くのと友人から聞くのでは情報量・正確さが異なる。「手話通訳をつけてほしい」と言ったが、学校としては外部の人は受け入れない方針のようだ。	教育目的を実現するためにも情報保障を整備する。また通訳派遣できる環境整備をする。
教育	某大学。聴覚障害者への配慮がない。講義など聞こえないことへのコミュニケーション保障に対して認識不足。	
教育	某大学の指定校推薦入学が決まっていたのに、「聴覚障害者を受け入れる態勢にない」と学校から通知が来て不合格になった。	手話通訳等の情報保障があれば可能。私学助成金制度等を学校は知らない。
教育	学校などの施設の校内放送が音声なので、ろう者には情報が入らない。	
教育	大学で、筆談では時間を要するので手話通訳をつけてほしいと言ったら拒否された。	
教育	大学でノートテイクをお願いしても実際に書けるのは話の数分の1である。手話通訳もない中で、講義終了間際に、講義の中からあるテーマについて書けと言われても、情報量が少なく、何を書けばよいのか。	
教育	先生に質問されたとき、聴覚障害とわかると、順番を飛ばされた。理由を聞くと、「しゃべれないから気の毒」とのこと。私にも意見を言う権利がある。	手話通訳者の配置等の配慮が必要。
教育	障害者高等技術専門校研修、企業委託訓練に手話通訳が付かない。	
教育	学校で教師の吃音に対する理解がない。朗読でどもったとき「わざとやっているんだろう」と言ったり、「英語を覚えればドモリは治る」「甘やかされて育つとそうなる」などと意味不明なことを言う教師がいた。	教師の態度が周囲の吃音への無理解・蔑視を助長するので、吃音への理解を深めるべき。
教育	吃音で国語の通信簿の「話す」欄に×がついた。	

教育 その他	交流学級があった日、笑いながら2人の男の子が寄ってきて、「こいつ、〇〇学級だぜ」と言ってきた。	
教育 その他	一見、障害が分からないので、「どこに障害があるの？普通に見えるじゃない。なんで特殊学級なんかに入れるの？」と、特殊学級を見下すような言い方をされた。	
教育 その他	「こんな子に、こんなことをして意味無いじゃん。」と普通学級の先生が言っていた。	
教育 福祉	幼稚園・保育園の受け入れが未だ不十分。「バリアフリーの建物ではないから」「事故が起こったときに責任が持てない」等、問題を回避しようという姿勢を感じる。	子育て支援という立場から、幼稚園・保育園は何のための場なのかを原点に立ってお互いに考えていきたい。
教育 福祉	福祉分野の職に就いているが、関西から引っ越してきて思うことは、障害児学級のある小中学校が非常に少なく、また、保育園・幼稚園での障害児の受け入れも進んでいないこと。障害も個性の一つであり、社会に障害のある人がいることが当たり前であるというように思うことができたのは、身近だったことがとても大きいと思う。かなり軽度の障害の子でも養護学校に通っているのが不思議でならない。	指導者がいないというなら、専門家を呼んでくるのではなく、外では研修などで学び、内ではその子どもと共に学び、専門性を身につけていくべき。実際に関わらなければ、理解は乏しく偏見を生む結果となる。
教育 福祉	保育園、幼稚園、学校、学童保育など、同年齢の子どもと過ごす環境に入れない。また、同じ環境にすることができても、きちんとした配慮がなければ、本人の意志に反して行事等に参加できない状況を生み、孤独感・劣等感に陥る結果となりさらに差別を生む。拒絶・分離すること、きちんとした配慮がないことが差別。	県・市町村とも公的施設の入所要綱などの「障害児を受け入れない」などの差別の撤廃。受け入れることが当たり前であるシステムへ改革し、そのための配慮と支援体制を整備。
教育・福祉	幼稚園・保育園の入園に際し、保育士の加配が無理という理由で入園できなかった例や、条件付きでの入園許可が出るケースが多い。	障害児に対しての職員加配は3:1となっているが、重度障害児には1:1の介助者(保育士)が必要である。また、手帳を持っていない子に対しても、加配対象の拡大等が必要である。そのためには、人件費の拡大が一番の改善である。
教育・福祉 その他	身体と知的の重複障害児。地域に受け入れる保育所はなく、小学校も安全面に不安があり養護学校へ行くと、地域とのふれあいはほとんどない。地域の小学校へウサギや鳥を見せに行ったりして地域になじもうとしたが、知り合いの少ない地域で子を知ってもらうには時間的制限・精神的苦痛を伴い限界がある。 特殊学級のある地域とない地域で住民の理解が違い、地域に居場所がないことが差別ではないか。	